

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	969.00	2020/11/30
High	1081.00	2020/12/4
Low	957.00	2020/11/30
Close	1059.20	2020/12/4

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3239.00	2020/11/30
High	3618.00	2020/12/4
Low	3196.00	2020/11/30
Close	3548.00	2020/12/4

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2428.00	2020/11/30
High	2436.00	2020/12/1
Low	2253.00	2020/12/4
Close	2352.00	2020/12/4

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	8134.00	2020/11/30
High	8174.00	2020/12/1
Low	7521.00	2020/12/4
Close	7880.00	2020/12/4



ニュースエクスプレス

プラチナ急騰、4年3カ月ぶり高値 主産地で供給減観測

プラチナ（白金）の国際価格が急騰し、約4年3カ月ぶり高値を付けた。主産地の南アフリカで鉱山大手の工場の稼働が停止し、供給が減るとの警戒感が高まった。将来需要が増えるとの期待や金などに比した割安感も加わり、上場投資信託（ETF）などを通じて投資マネーが流入した。

国際指標となるニューヨーク先物は日本時間4日の時間外取引で一時1トロイオンス1050ドル台に上昇。近年の上限だった1000ドルの心理的な節目を突破し、2016年9月以来の高値となった。

上昇のきっかけは供給減観測の台頭だ。白金鉱山最大手のアングロ・アメリカン・プラチナが11月、工場の漏水トラブルで年内の稼働を停止すると発表。需給の引き締め観測が投資家の買いにつながった。

白金ETFの残高は増加傾向だ。金融情報会社リフィニティブによると、世界の白金ETFが裏付け資産として持つ現物の残高は約80トンと3月末以来の高水準となった。

将来の需要増への期待も投資マネーをひき付ける要因だ。住友商事の永尾英二郎コモディティビジネス部長は「環境政策を重視するバイデン氏の米大統領選勝利以降、燃料電池車（FCV）などに使う白金に思惑買いが入っている」と話す。

金やパラジウムなど他の貴金属と比した割安感も買いの一因とみられる。一般的に白金は同じ貴金属の価格動向に連動しやすい。だが独

フォルクスワーゲンのディーゼル車の不正問題が発覚した15年以降、白金は金を下回り、金との価格差が今夏以降1トロイオンスあたり1000ドル超と過去最大に広がっていた。足元の上昇で価格差は800ドル前後まで縮小した。

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ067029120U0A201C2QM8000>

NYプラチナの大口投機家の買い越しが拡大

プラチナETF（上場投信）残高は11月30日の米国で38.32トン（10月末38.63トン）、英国で18.94トン（同19.28トン）、南アで16.65トン（同17.35トン）に減少した。景気回復期待が高まったが、短期的な景気の下振れリスクが残り、戻り場面で投資資金が流出した。

米商品先物取引委員会（CFTC）の建玉明細報告によると、11月24日時点のニューヨーク・プラチナの大口投機家の買い越しは1万8765枚となった。10月20日の7825枚を当面の底として買い越しを拡大した。欧州の新型コロナウイルスの感染再拡大で売り圧力が強まっていたが、ワクチン開発進展による景気回復期待を受けて買い戻しが進んだ。新規買いも入っており、1000ドルを超えてから買いが続くかどうか当面の焦点になる。

一方、ニューヨーク先物市場の指定倉庫在庫は11月30日に62万3474オンス（10月末65万7775オンス）に減少した。景気回復期待から実需筋は買い戻しに動いた。

<https://kabutan.jp/news/marketnews/?b=n202012020472>

排ガスがジェット燃料に？ 東芝・ANAなど、カーボンリサイクル事業を検討

東芝エネルギーシステムズ、東芝、東洋エンジニアリング、全日本空輸など6社は12月2日、産業設備などから排出されるCO2をジェット燃料に再利用する「カーボンリサイクル」のビジネスモデルの検討を開始すると発表した。

今後、各社が持つ知見・技術、プラント設備などを活用し、「持続可能なジェット燃料（SAF）」を供給するサプライチェーンにおける課題抽出や将来のビジネスモデルの検討を共同で実施する。具体的には、産業設備の排出ガスなどから分離回収したCO2を原料として、再生可能エネルギーと水素を用いたSAFを製造し、フライトまでの供給サプライチェーンの上流から下流まで、一気通貫した検討を行う。

<https://www.kankyo-business.jp/news/026722.php>

WPIC直近の活動

● WPICのアンニュアルコンファレンスは12月4日蘇州で「新エネ・新素材・新エコ」をテーマに開催した。貴金属業界、投資業界からおよそ400人超えの参加者が集まった。20社以上の通信社から約30人の記者が会議を報道するため現場に臨んだ。大会は生中継を行い、視聴者数は17.8万人超え。

● WPICは2020年第三四半期のレポートを11月18日に発表致しました。白金の需給が37トンの供給不足になるとの見通し。詳しくは下記をご覧ください。

https://platinuminvestment.com/files/786933/WPIC_PR_PQ_Q3_2020_20201118_JA.pdf

● 日本経済新聞11月19日付けの朝刊にWPICの第三四半期のレポートを下記の報道「プラチナ供給不足が最大 今年37トン、鉱山・工場停止響く」に取り上げた。

<https://www.nikkei.com/article/DGKZ066391650Y0A111C2QM8000/>



(@wpicjapan)